

市立豊中病院運営計画「実施計画」進捗状況
- 平成27年度の実施状況(中間報告) -

平成28年2月

1 . 医療の質の向上

高度・専門医療の提供	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
(1) 医療スタッフの確保 多様かつ柔軟な手法による採用試験、説明会の実施による医療スタッフの安定的確保に努める。また仕事と家庭の両立が出来るよう環境の整備(院内保育所の充実、病児保育)の検討などを行い、加えて働きやすい勤務時間制度について検討を行う。	民間事業者主催の医師の合同説明会に2回、看護師の合同説明会に11回参加し、職員募集のPRに努めた。採用試験は看護師について3回、薬剤師について2回実施するなど、医療従事職員の確保に努めた。		
(2) 病床の効率的な活用 全国の急性期病院においては、在院日数が年々短縮傾向にある。当院においても、将来的に同様の傾向が想定される中、更なる新入院患者確保を前提とした効率的な病床の活用に努める。	7対1看護配置は「重症度、医療・看護必要度」などの要件を満たしている。10月末時点の累計で、病床利用率は92.7%(前年度比マイナス2.2%)で目標値を下回っている。平均在院日数は11.94日(前年度0.56日短縮)となっており、目標値を上回っている。	利用率・在院日数 95.0% 13日以内	利用率・在院日数 92.7% 11.9日
(3) 外来診療の充実と効率的な運用 入院と同様に外来機能についても、高度・専門医療を行うにあたって重要な視点となる。予約率の向上により効率的な運用を図るとともに、特殊・専門外来の充実を図ることで、外来診療の充実にも努める。	平成27年1月に開設した慢性心不全看護外来の今年度上半期の実績は157名(1回平均6.5名)であった。1日平均の外来患者数は1,220人で目標値を下回っている。	外来患者数(1日平均) 1,300人	外来患者数(1日平均) 1,220人
(4) 救急医療体制の充実 当院は、豊能二次医療圏のなかでは救急搬送件数の最も多い病院の1つであり、今後も公的病院としての役割を果たす必要がある。救急専門医確保による安定的な受け入れ体制確保に努めていく。	院内トリアージシステムの運用が確立し、重症度患者数・搬送時間・搬送年齢等の統計が可能となった。豊中市消防局と意見交換会を行った。	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数 5,550人 4,850人	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数 5,288人 5,302人
(5) 手術室の効率的な運用 手術室の効率的な運用により、手術待ち日数の短縮化と、これまで以上の緊急手術への対応を図ることで、地域中核病院として高度・専門医療の提供に努める。また、麻酔科医の十分な確保を図り、地域の手術に対する需要に適切に対応していく。	異物遺残確認のため、体腔内手術後、全例にX線撮影を開始した。上半期手術件数は昨年度から88件減少したが、外保連指数は10.67から11.01と0.34ポイント増加した。	手術件数 6,000件	手術件数 5,500件
(6) 周産期医療の充実 産婦人科医、小児科医、看護師等の人員体制の整備を中心とし、地域医療機関との連携体制を構築していくことで、「地域周産期母子医療センター」としての診療機能の維持・強化に努める。特に、当院に求められるハイリスク妊娠、多胎妊娠などへの安定的な対応に努めていく。	上半期の分娩件数は401件、このうちハイリスク分娩は76件(多胎分娩21件)であった。また、10月までの院内助産は16件であった。	分娩件数 960件	分娩件数 850件
(7) がん医療の充実 がん医療の提供、緩和ケアの推進、がん医療の地域連携体制の推進、院内・地域がん登録の実施、情報提供や相談支援の実施など「地域がん診療連携拠点病院」としての機能の維持・強化に努める。	地域がん診療連携拠点病院の機能・役割を「部だより」「病院だより」「チーム医療」等で広報、病院ホームページでPRの強化に努めるとともに、患者会である大阪ええナビとの連絡連携を図った。		

(8) 医療資源の有効活用	病院内のスペースの見直しについて、1階ロビーのコーヒーストップ跡のスペース活用について検討した。(地域連携コーナーとして利用予定)		
既存の診療機能について、当院に求められている高度・専門医療の提供といった役割や需給状況に応じて柔軟に見直しを図ることで、より適切な医療提供体制整備に努める。			
(9) 放射線の管理	CT・血管撮影・一般撮影・乳房撮影は、「医療被ばく抑制の統一基準」をクリアできていることを確認した。放射線治療部門の品質管理体制を確立した。(位置照合装置と照射装置の整合性チェック、電子線・X線の線量管理など)		
チ・ム医療の一員として放射線などを利用した検査・治療をするに当たり患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう 医療の安全・安心の向上を目指し装置の点検・保守をし被曝線量の低減等放射線管理に努めていく。			
(10) 急性期におけるリハビリテーションの実施と充実	早期介入の成果として脳血管疾患のリハビリテーション開始日数が平均1～2日程度短縮された。運動器疾患については理学療法で処方数が増加している。	PT、OT、ST、心リハ 18単位/一人/日 18単位/一人/日 18単位/一人/日 30単位/一人/日	PT、OT、ST、心リハ 18単位/一人/日 18単位/一人/日 18単位/一人/日 25単位/一人/日
現在の中心疾患別(脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群)急性期リハビリテーションの充実を継続して行う。25年度より心臓リハビリテーションを実施する。またその充実を図るために、積極的な研修参加や部内での勉強会を引き続き行っていく。			
(11) 治療に適切な食事の提供	電子カルテに特別食に対応する疾病がある患者に対して、適応する治療食がオーダーされるように啓発を行った結果、加算食比率は上昇傾向にある。	特別治療食の比率 31.0%	特別治療食の比率 31.0%
病院食は普通食以外にも、疾病の種類や摂食・嚥下の機能障害など様々な条件に対応できるように多くの種類を設定しており、さらに医師からの要望によりその種類は増えつつある。その全てがさらに院内で広く周知され、十分に活用されるよう体制づくりに努める。			
(12) 医療ニーズの把握と検証	地域医療構想、病床機能報告への対応などについて経営戦略会議で検討した。病床機能報告は10月に実施した。原価計算が可能な経営支援システムの導入について検討した。		
外部環境分析および内部環境分析による医療需要の把握と医療供給の検討に努め、地域の中核病院として当院の果たすべき医療機能を検証する。また、検証内容は病院職員に積極的に公表し、情報の共有化に努める。			
医療の安全・安心の向上	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
(13) 医療安全対策の徹底	医療安全管理研修会(8月と2月予定)、新規採用の研修医および看護師に対する医療安全研修、医療安全推進週間での市民へのアピール、医療安全管理室ニュースの発行(月1回)などの取り組みにより、職員の医療安全に関する意識の向上が図れた。		
医療安全管理室を中心に全職員が、医療事故発生の防止に取り組み、各種関連学会等を通じた新たな知見を習得することによって、「安全で安心できる病院」となるよう努める。			
(14) 院内感染防止対策の充実	刀根山病院、市立池田病院との相互ラウンド、市内4病院と豊中市保健所の合同カンファ、抗MRSA薬・ゾシンおよび連絡薬剤(カルバペネム系)使用患者対象にICTラウンド(週1回)、全職員を対象に感染対策講習会(2回)等を実施した。	MRSA発生率0.4% 緑膿菌発生率0.4% セラチア菌発生率0.1% 施設間ラウンド2回 合同カンファ4回以上	MRSA発生率0.47% 緑膿菌発生率0.48% セラチア菌発生率0.03% 施設間ラウンド2回 合同カンファ6回
病院内の全ての人々を感染から守るため、現行のICT(院内感染対策チーム)による更なる活動の充実を図るとともに、関係各所と協力のもと体制強化に努めることで、継続的な感染対策活動を推進する。			

(15) 災害対応と危機管理体制の確立	災害時に関係者が連携して、迅速・的確に対応できる体制づくりと職員の防災意識の向上を図るための大規模災害訓練を10月に実施し、238名が参加した。また、訓練実施前に担当部門ごとに事前勉強会を9回実施し、193名が参加した。		
突然の有事に迅速かつ適切に対応できるよう職員の意識や能力を高めることを目的に大災害や大事故に備えてマニュアルの更新や訓練を実施する。また、他地域における被災地への支援活動についても各種要請に適切な対応を図ることが出来るよう体制を整備する。			
情報化の推進と職員教育の徹底	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
(16) 市立豊中病院総合情報通信システムの充実	重症系患者管理システム及び周術期情報管理システムの導入業者を決定し、28年2月上旬の運用開始に向けワーキングを行いながら構築に取り組んだ。	資産管理調査率	資産管理調査率
電子カルテ更新について、「運用の効率化と安全性の向上を図るためにはどのような機能が必要なのか」という視点で更新する。		100%	100%
(17) 個人情報保護に係る研修の推進	集合研修による情報セキュリティ研修を6月に実施した。2回目の集合研修とeラーニングによるセキュリティ研修は2月に実施予定。USBメモリの管理徹底に関する啓発、標的型攻撃に対する意識向上の啓発を実施した。	e-ラーニング受講者数 セキュリティ講習会	e-ラーニング受講者数 セキュリティ講習会
セキュリティシステムの構築と並行して、研修等を通じ職員の個人情報保護の意識を高める取り組みを実施する。あわせて、カルテ及び診療諸記録の紙媒体ならびに電子媒体の実態に即した、運用管理の構築と保存の徹底を図る。		600人 100人	(実施予定) 100人
(18) 診療情報管理の徹底	診療録等の取扱いについて委員会での検討及び関連部署への確認を行い保管期間を決定した。(紙媒体の診療録は原則20年間、諸記録は5年間、治験対象診療録は永久保存など)	退院時要約作成率	退院時要約作成率
精度の高い診療情報の整備ならびに情報提供依頼に即応できる管理体制の構築に努める。管理体制の構築にあたっては、診療記録の質の向上を図り、職員に対する意識づけや管理方法の改善等を継続して実施していく。		90%	96%
(19) クリニカルパス充実による医療の標準化	クリニカルパス設定期間を調査し、最も適応されている病名の入院期間 の日数を基準に設定されているか外科系を中心に調査した。2月にクリニカルパス大会が開催できるよう調整を行った。	クリニカルパス利用率 クリニカルパス設定期間検証数	クリニカルパス利用率 クリニカルパス設定期間検証数
質の高い医療の標準化を目的に、クリニカルパスの充実を図る。クリニカルパスを適用することで医療の質のみならず、患者満足度の向上や安全管理にも寄与する。		50%以上 100種	52%見込 100種
医師及び看護職員の業務負担軽減	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
(20) 医師の業務負担軽減	平成27年度よりメディカルアシスタント室を新たに設置し、医師事務作業補助体制の強化を図った。各種育児支援策を実施した。応援医師の活用にも努めた。		
医師の業務負担軽減策を検討する。業務負担軽減策の1つとして医師事務作業補助体制の充実を図る。また、平成24年度より試行的に導入している外来メディカルアシスタント(MA)の拡充についても検討していく。			
(21) 看護職員の業務負担軽減	ベッドコントロールのフローを作成し、看護部と地域医療室と連携し一元化した結果、看護師長やスタッフの病床管理業務が軽減された。		
近年診療報酬上においても、看護職員の負担軽減を促進することが積極的に推進されている。看護補助体制の充実による業務負担軽減の可能性や職種間での業務分担のあり方を検討していく。			

2. 患者サービスの向上

接遇および患者の利便性向上	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
<p>(22) 患者満足度の向上</p> <p>入院患者および外来患者を対象とした満足度調査を計画的に行い、調査結果から得られた課題・問題点を分析し、患者サービスの視点から改善方法等を検討、実施する。また、投書(意見箱)などを通じ、患者・家族からの意見や要望の把握に努めるとともに、患者ならびに家族等の不安を軽減すべく、患者相談体制の一層の充実に努める。</p>	<p>11月～12月にかけて入院患者および外来患者を対象に患者満足度調査を実施した。調査結果は3月に報告会を実施する予定。入院パンフレット内容の見直しを行った。</p>	<p>患者満足度</p> <p>前回調査を上回る (外来83.6%、 入院93.5%)</p>	<p>患者満足度</p> <p>(結果待ち)</p>
<p>(23) 接遇の向上</p> <p>患者・家族と病院職員の信頼関係を向上することを目的に、全職員を対象とした接遇研修の継続的な開催を行う。併せて、より職員が医療現場で生かすことが出来るような効果的な研修の内容についても検討を行い、接遇マナーの徹底に努める。</p>	<p>接遇マニュアルを院内ポータルおよび院内ホームページなどに掲示し周知を行った。2月に外部講師を招いての職員向け接遇研修会を実施する予定。</p>		
待ち時間対策および院内環境の整備・充実	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
<p>(24) 診察・各種検査待ち時間の対策</p> <p>外来診察や各種検査の待ち時間・日数について、人員体制やシステムのハード面や、運用面といったソフト面の改善により、これらの待ち時間の短縮を図ることが出来ないか検討を行う。特に紹介予約患者における待ち時間短縮を優先に検討を行う。</p>	<p>会計待ち時間調査を行い、結果については医事業務連絡会にて人的要因やシステム的要因などの検討を行い、改善に向けて取り組みを行った。患者の体感待ち時間を短縮できるよう「とよなか病院ねっと」の当院独自番組(オリジナルコンテンツ)を作成した。</p>		
<p>(25) 売店機能などアメニティの充実</p> <p>患者さんや職員の利便性の確保のためコンビニエンスストアを設置する。またアメニティの充実について検討を行う。</p>	<p>来院者の利便性向上のため駐輪場拡充の設置工事を行い、1月下旬に竣工した。この結果、(従来の50台から)150台分の駐輪が可能となった。</p>		
<p>(26) 食事療養の充実</p> <p>病院食については「栄養管理」はもとより、食材・調理法・味付けにおいても一層充実した病院食提供が求められている。定期的な嗜好調査等の実施を通じて、より患者にとって満足度の高い食事提供に努める。</p>	<p>シェフのおすすめメニュー(四季折々の食材を使用したメニュー)およびマチカネデリカ(家庭でも作りやすい野菜たっぷりメニュー)をそれぞれ月に1回、行事食を年22回実施し、患者からの感想も良好であった。</p>	<p>シェフのお勧めメニュー</p> <p>マチカネデリカ</p> <p>1回/月 1回/月</p>	<p>シェフのお勧めメニュー</p> <p>マチカネデリカ</p> <p>1回/月 1回/月</p>
地域への貢献	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
<p>(27) 市民向け講演会・講座の開催</p> <p>地域の中核病院として、講演会や講座の開催を通じて、患者・地域住民に対する啓発活動に努め、より身近な病院として信頼向上を図る。</p>	<p>市民を対象に「がん医療公開講座」、「救急医療を知ろう～集中治療室の現場から～」、中学生を対象に「性感染症について」、「がんについての正しい知識とがん予防について」などの講演・講座を実施した。</p>		

(28) 広報機能の充実			
<p>広報機能の一層の機能充実を図ることで、病院のPR強化に努める。既存の広報ツールや情報収集のプロセスにおいて、不十分な点や見直しの余地が残されている点を抽出し、全病院的な取り組みが展開出来るよう、体制の整備に努める。</p>	<p>ホームページはスマートフォン対応サイトをリニューアルを行った。病院だよりは6月、10月、1月に発行し、3月にも発行する予定。病院年報は9月に発行した。豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会のホームページ制作に着手した。</p>		

3 . 医療連携の推進

地域における医療機関との連携	27年度の実績状況	27年度目標	27年度見込
<p>(29) 地域医療支援病院機能の維持・充実</p> <p>紹介・逆紹介の推進、在宅医療の支援、地域医療従事者に対する研修の実施、市民等への医療情報発信など「地域医療支援病院」に係る機能の維持・充実に努める。</p>	<p>地域連携をさらに進めるため、市内外の地域医療機関を診療科部長と地域医療室職員が訪問し、業務改善に努めた。地域医療従事者向け研修会を各診療科、各医療チームで定期的に開催した。</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率</p> <p>59.0% 69.0%</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率</p> <p>73.0% 75.0%</p>
<p>(30) 病病連携・病診連携の推進</p> <p>当院の診療機能・専門領域などのPRに努めるとともに、地域医療機関との信頼関係の構築により患者へのシームレスな医療提供を図る。</p>	<p>平成27年10月1日から千里山病院との「とよなか・千里山あんしんルート」事業を開始した。(70才以上の高齢者で誤嚥性肺炎の患者を対象) これにより病院の機能と患者の状態にあわせた治療を提供することができた。</p>	<p>登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科)</p> <p>78.0% 68.0%</p>	<p>登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科)</p> <p>77.0% 70.0%</p>
<p>(31) 4疾病を中心とした地域医療連携パスの拡充</p> <p>現在、地域の医療機関と協力して「がん」、「脳卒中」、「糖尿病」、「急性心筋梗塞」、「大腿骨頸部骨折」といった疾病の地域連携パスが稼働している。今後も、地域全体でのシームレスな医療提供体制の充実に努めるべく、対象疾患ならびに連携医療機関の拡充を図っていく。</p>	<p>がん地域連携パスは、地域医療機関への訪問等とおして連携先医療機関を拡大した。脳卒中パスについては、パス運用をわかりやすく説明するため、患者向けの説明ツールとして、療養パンフレットを作成した。</p>		
<p>(32) 臨床検査講演会・技術講習会の開催</p> <p>地域における医療機関の医師、臨床検査技師や看護師などの医療従事者を対象に、臨床検査をテーマとした講演会や技術講習会を開催し、最新の情報を提供するとともに情報交換を行い、医療水準を高めていく。</p>	<p>超音波技術講習会は2月に開催を予定しており、対象者は市内の医療従事者(医師、臨床検査技師など)。来年度開催予定のオープンホスピタルに向けて臨床検査の見学や体験内容などを検討した。</p>	<p>超音波技術講習会</p> <p>1回開催</p>	<p>超音波技術講習会</p> <p>1回開催</p>
自治体立病院、特定機能病院との連携	27年度の実績状況	27年度目標	27年度見込
<p>(33) 圏内市立病院および特定機能病院との連携</p> <p>各病院の医療提供体制や地域性、自治体の意向等も考慮した上で、二次医療圏内として最適な機能分担のあり方を検討する。なお、当該連携にあたっては、機能分担のみならず、各種情報連携のあり方といった点も含め検討を進める。</p>	<p>北大阪5病院会議などを通じて情報交換に努めた。「豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会」や「豊能医療圏脳卒中地域連携パス会議」などを通じて、連携強化に努めた。</p>		

4 . 経営基盤の確立

収益の確保	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
<p>(34) 診療報酬の適正な算定</p> <p>診療報酬算定については月次レベルでの算定状況確認に努める。特に医学管理・在宅療養に係る算定項目は業務運用による部分も大きいとため、関連する業務運用の検証も適宜行っていく。またレセプト減点率や保留削減にも継続して努めることで適切な精度管理も行っていく。</p>	<p>医学管理システムの導入により、算定根拠となるカルテ記載との整合性に取り組んだ。また、レセプト点検システムを使用して、減点・返戻の減少に取り組んだ。</p>	<p>減点率</p> <p>0.23%</p>	<p>減点率</p> <p>0.28%</p>
<p>(35) DPC/PDPS制度への対応</p> <p>適正な病名コーディングおよび正確なデータ提出に努める。また、制度設計の過渡期であるDPC/PDPS制度に対して、適宜各種関連データ等を用いた分析・検証を行う。</p>	<p>コーディングの精度について、平成27年度上半期の詳細不明コードは他病院の平均5.8%と比較し、当院は昨年引き続き0.4%に抑えることができた(DPC分析ソフトEVE参加580病院中6位)。</p>		
<p>(36) 未収金の発生抑止と督促体制の強化</p> <p>適切な収益確保並びに負担の不公平感の解消という2つの視点から、未収金の発生防止と督促体制の強化に努める。発生抑止については、発生要因別に事例整理をおこない、要因ごとの病院対応方針を明確化する。また、多様な手法による督促体制の構築を検討する。</p>	<p>上半期の電話による催告787件、窓口での催告289件、督促状の送付518件を行い未収金の回収に努めた。救急入院患者へ限度額認定の説明を実施して未収金の発生抑制に取り組んだ。回収困難ケースを弁護士事務所に委託して回収に努めた。</p>	<p>現年度分収納率</p> <p>過年度分収納率</p> <p>99.0%以上</p> <p>20.0%以上</p>	<p>現年度分収納率</p> <p>過年度分収納率</p> <p>99.3%</p> <p>18.0%</p>
費用の抑制、軽減	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
<p>(37) 後発医薬品導入の検討および導入効果の検証</p> <p>後発医薬品への切り替えについては、安全性の確保を最優先とし、今後の薬物療法の変化、他病院での使用状況、流通状況、納入価格、切り替え効果などを鑑み、検討していく。</p>	<p>平成27年4月において後発医薬品指数は0.64であったが、5月に10品目、6月に10品目と順次後発医薬品への変更を行い、7月には0.73となった。またこの後、8月に2品目、9月に38品目を変更した。</p>	<p>後発医薬品指数</p> <p>0.70</p> <p>(DPC対象期間: 10月～9月)</p>	<p>後発医薬品指数</p> <p>0.65</p> <p>(DPC対象期間: 10月～9月)</p>
<p>(38) 材料費の抑制・軽減</p> <p>材料の価格交渉の実施について、各々の特性に応じた交渉方法を検討していく。また他病院とのベンチマークを元にした現行採用物品の価格の適正化や新規採用物品の価格交渉活動を行う。</p>	<p>診療材料と医薬品について、市場価格を調査しベンチマークを元にして仕入業者と価格交渉を行い、購入価格の抑制に努めた。</p>		
<p>(39) 光熱水費の抑制・軽減</p> <p>全職員に対してコスト抑制に対する意識を働きかけていくことで、光熱水費などの諸経費の抑制・軽減に努める。</p>	<p>光熱水費の削減に向けて、照明の間引きや空調温度の適正管理、空調一部停止などに取り組んだ。平成26年度比(4月～9月)で、電気使用量7.8%減、ガス使用量15.7%増、水道使用量16.6%増となった。</p>	<p>エネルギー使用量</p> <p>3%減</p> <p>(平成23年度比)</p>	<p>エネルギー使用量</p> <p>5.8%減</p> <p>(平成23年度比)</p>

(40) 施設の計画的な整備			
平成24年度に作成した施設の修繕・整備計画に基づき建物や設備の改修を実施する。また、コ・ジェネレーションシステム(熱電併給)の更新などを実施する。	駐輪場の設置工事は1月に竣工した。また、管理棟電子カルテシステム増設、手術室インターホン更新、深井戸ポンプ更新工事は2月に竣工を予定している。		
(41) 医療機器の計画的な整備			
地域の急性期中核病院として必要な高額医療機器について、導入の緊急性や需要見込み等を考慮しながら適切な更新計画を策定のうえ整備する。また、とくに重点化を図るべき分野については、優先的に整備する。	平成28年度の機器購入の検討を行った。(手術支援ロボット購入、PACS(医療画像情報装置)更新など) また、今年度はICU/NICU重症部門患者情報システムの構築準備や手術部門システムORSYSの更新準備をすすめた。		
(42) 超音波装置の中央管理実施			
超音波センターを設置し、院内の超音波検査装置を臨床検査部で統括管理する。効率よい運用ができるよう配備し、必要に応じて点検やメンテナンスなどを行う。また適切な更新計画を策定する。	新規購入の装置も含め超音波リスト(48台)の更新や次年度予算申請を超音波機器管理センターが一括して行った。また、装置取り扱いマニュアルの作成や研修医オリエンテーション時に超音波装置の指導を行った。		
運営管理体制の構築	27年度の取組状況	27年度目標	27年度見込
(43) 職員のモチベーション維持向上			
公平で透明性の高い業績評価制度の導入を図ることで、日常業務に対するモチベーション向上に努める。当該制度導入にあたっては、経営的な視点の他に、日常業務に対する姿勢や行動といった視点を踏まえた制度設計に努める。その他、時間外勤務労働についても業務効率化を図ることで削減することをめざす。	地方公務員法改正に伴う人事評価制度について、医師の人事評価制度案を策定し試行した。看護職員の深夜業務特殊勤務手当を増額した。		
(44) 研修制度の充実			
高度・専門医療の提供の実現にあたって、人材育成は最も重要な要素であり、病院全体として充実を図る。また、当該取り組みを対外的に積極的にPRしていくことにより、患者だけでなく医療スタッフにとっても魅力ある職場づくりを推進していく。	医療安全研修会(e-ラーニング含め791名参加)、緩和ケア勉強会(209名参加)、感染対策研修会(78名参加)など各種研修会を実施した。心肺蘇生の研修会を計8回実施し182名が参加した。また委託業者向けにも心肺蘇生研修会を実施し24名が参加した。		
(45) 地方公営企業会計制度改正への対応			
企業会計基準との整合を図ることを目的として、地方公営企業会計制度が改正された。借入資本金の負債計上や退職給付引当金、賞与引当金等の義務化、リース会計の導入など、大きく制度が変更されるなかで、これらの制度改正に対応する必要がある。また、財務諸表・健全化指標への影響の把握に努め、良好な経営基盤の確立に向けて取り組みを行う。	新会計基準に基づいた決算書や決算統計書類を作成した。病院ホームページに、豊中病院会計における新会計制度の説明や影響について、情報発信を行った。		
(46) 病院機能評価による機能向上			
病院機能評価の認定更新により、現状の優れている点や改善すべき問題点を客観的に把握し、改善に努めることで病院機能の向上及び効果的なサービスの改善につなげる。	平成26年度で終了。		

(47) 経営状況・業務実績の共有化	4月に「運営方針について」、7月に「(実施計画の)平成26年度実施状況」、11月に「院内通信」、「市立豊中病院の経営状況」を院内ポータルおよび院内ホームページに掲載して、運営方針や経営状況などについて全職員への情報共有に努めた。		
全職員が病院の経営状況を理解し日常の業務に柔軟に対応出来るよう、周知の方法や周知する内容等も工夫を図る。目標に対する達成度や現状の課題を認識することで、迅速な経営判断・実行への着手を図っていく。			